

茨城県では、県内の難聴・言語の担当者の約2～3割が初任者で、担当者の約半数が3年未満の経験年数という実態があり、5年前よりその実態に変化はみられない。県の研修センターでも、昨年度より言語障害についての研修講座（希望制）が開催されるようになったが、言語の専門的な研修の場が少ないことが課題になっている。

そこで、今年度の市町村代表者研修会（6月30日開催）に併せて、初任者向けの研修会（経験2年未満）「はじめのいっぽ in 茨城」を開催した。研修会の講師予算には限りがあるため、講師は県内の難聴・言語の担当者（10年以上）に依頼した。

第1部では、「茨城の難聴・言語障害教育の流れについて・授業の実際・構音指導について」を2人の言語担当者が実際の指導の流れや授業のビデオの鑑賞・構音指導の基本をパワーポイントで説明し、各学校に配布されている「きこえとことば研修テキスト第2版一」（全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会）を活用して研修を行った。



講師 守谷市立守谷小学校 大熊和代

講師 守谷市立松ヶ丘小学校 中村 麻理子

第2部では、グループ協議「それぞれの悩み・疑問を出し合おう」という題で、各グループに分かれて協議を行った。グループ5～6人を1グループとし、地区ごとに分かれることで同じ悩みを共有し、交流をより深めた。各グループの中にはアドバイザーが入り、協議の進行をした。「協議が行き詰まったときなどアドバイスを受けることができ、日頃、困っていることや分からなかったこと、学校に戻ってから、試してみようという気持ちになった。」という感想があげられた。



グループアドバイザー

つくば市立竹園東中学校	吉村 司
土浦市立土浦小学校	原井 寿枝
石岡市立府中小学校	大塚 玲子
守谷市立守谷小学校	大熊 和代
守谷市立松ヶ丘小学校	中村 麻理子

午後に行われた代表者研修会では、講演として「ことばやきこえに課題ある子の指導について」をつくば市立竹園東中学校の吉村司先生から話を伺った。日頃の実践について、難聴学級での課題について、難聴児への対応や困っていることを参加者から挙げ、具体的に対応策を考えるという形だった。

今回の初任者向けの研修会は、初の試みだが、できることを自分たちでという姿勢を大切にし、来年も引き続き、このような研修を継続していくことが次のはじめのいっぽにつながると思うことができた。今後もいろいろな先生方の力を借りて、難聴・言語障害教育の研修の充実を図っていきたい。

（文責 茨城県理事 大熊和代）